

勝呂クリニックよりご挨拶

院長 勝呂 元彦



2025年1月から西宮渡辺病院グループの一員となった勝呂クリニックです。

医療機関としての勝呂クリニックは、この西宮の地において100年近くになります。

今の医療行政の締め付けのために診療体制の見直しを余儀なくされました。思考錯誤の末、昨年西宮渡辺病院グループへの統合の話を進めてきました。佐々木理事長に相談した際、好意的に対応していただきました。

クリニックでは沢山の先生方、看護師の皆さん、事務員さん、薬局の先生、西宮渡辺事務局の皆さんが助けてくださっています。

昨年からの統合の話がなければ、勝呂クリニックは閉院の運命でした。

西宮渡辺グループが当院の医療業務の継続を可能にしてくれました。感謝の念に堪えません。

勝呂クリニックは肛門疾患症例が多く、年間700例位の手術をしていました。臨床肛門病技能指導施設の認定を受けています。昨年までは18床の入院ベッドを持つ有床診療所でした。

昔は入院期間も長く、ゆっくり入院加療する患者さんが多い時代でした。ところが厚労省の指導により入院ベッド数の削減や施設基準のみなおしが始まりました。厚労省は現在の入院ベッド数を12万床削減する予定と聞きます。日本の医療体制はどうなっていくのでしょうか。

私自身は4月から外来診療を再開。電子カルテを知らない世代です。

私は以前、患者さんの肛門疾患部分をすぐにカルテに描いていました。カメラで撮った写真をすぐにカルテに貼っておく。文章だけでなくスケッチや写真を見ればすぐに患者さんを思い出す。電子カルテでは簡単なスケッチを瞬時に描けない。手術時に撮影した写真を見るにも手間がかかる。現在私の診察時には横でタイプを打ってくれる人がいるので助かっていますが、今の便利さが自分にとっては不便に感じるころはこれからの課題です。

私は臨床医として、患者さんに触れる診察を大切に、変わらぬ思いでこれからも続けていきます。皆さんよろしくお願ひ致します。



谷崎潤一郎の小説「細雪」にも「西宮にある肛門病院」として登場してまいります。

社会医療法人渡邊高記念会 広報誌

わたなべニュース

Nishinomiya Watanabe Hospital Public Relations Magazine



vol.140

2025.7.18



西宮渡辺心臓脳・血管センター 開院記念



「理事長 ご挨拶」

社会医療法人 渡邊高記念会
理事長

佐々木 恭子



6月1日は

「西宮渡辺心臓脳・血管センター」
「西宮渡辺脳卒中・心臓リハビリテーション病院」
「42条疾病予防運動施設 健康塾」
「老人保健施設 ハートケア」
私共法人が運営する二つの病院と二つの施設の開院記念日です。



皆様のご協力とご支援、心より御礼申し上げます。

創設者の最後の夢を背負い開設された「心臓脳・血管センター」と42条疾病予防運動施設「健康塾」、老人保健施設「ハートケア」の設立は2006年で今年20周年、「脳卒中・心臓リハビリテーション病院」の設立は2018年ですからこちらは8年目となります。今年法人の原点である西宮渡辺病院も60周年で法人にとっては未来を考える節目の年でもあります。

センターは高度急性期のそしてリハビリテーション病院は回復期の脳、心臓そして血管疾患を専門とする病院で、二つの病院を合わせれば救命に関わる高度急性期からリハビリテーションそして予防に至るほぼ全ての心臓・脳・血管に関わる疾患に対応可能となります。心肺停止に至る救急の多くは循環器そして脳血管の疾患と言われますから救急車と共に現場に駆けつけるラピッドレスポンスカーの運用に始まる心臓脳・血管センターの活動は正に地域の救命と救急の最前線です。

心臓脳・血管センターには近隣の民間病院では私どもだけという非常にハイスペックなCTを始め多くの最新鋭医療機器が揃っています。循環器領域に於ける対応に加え、今年度4月からは兵庫医科大学脳神経外科の全面的なサポートも加わり、より迅速により確実に24時間体制での心臓・脳・血管疾患への対応が可能な病院として日々進化しています。

その時代にあって最新最良の医療を目指す私共の努力は微力ながらも地域医療の向上に繋がっている事と確信しています。

「健康寿命の延伸を図るための脳卒中心臓病その他の循環器に係る対策に関する基本法」、国民の健康長寿を願って作られた法案趣旨に沿った取り組みを行なっているのが法人施設の中では一番南、西宮市前浜町に位置する「脳卒中心臓リハビリテーション病院」です。非常に小さな病院ですが、脳血管のリハビリテーションと共に心臓リハビリテーションが可能な全国的にも珍しい病院です。心臓脳・血管センターに併設された42条疾病予防運動施設「健康塾」は疾病予防と健康維持のための運動施設です。急変時には直ちに医師が駆けつけられる環境の元、安全に運動が出来る施設として、近年はトレーナーによる個別指導にも力を入れています。リハビリ病院と共に前浜町にあるハートケア(老健)は高齢多死時代をむかえ看護力を強化、在宅復帰を目指すと共に看取りの出来る老健として機能強化に努めています。

人手不足に物価の高騰、病院運営には逆風が吹き荒れています。苦難の多い時代にあっても保険医療機関として歩む私共にとって、地域医療に貢献する歩みは全うしなくてはならない使命です。

皆様のご期待に添えます様にと願いつつ、より一層のご支援とご協力を心よりお願い致します。

「管理者兼院長 ご挨拶」

西宮渡辺心臓脳・血管センター
管理者兼院長

増山 理



創立20周年、おめでとうございます。

ここまで成長してこられたのは、『敬天愛人』～命を敬い人を愛する医療の実践～という病院の理念が地域の皆さまに受け入れられてきたからだろうと思います。

西宮渡辺心臓脳・血管センターは“断らない医療”を掲げて救急車を積極的に受け入れております。当センターの応需率(救急車を受入れた割合)は他の病院と比べて高いのですが、救急のお断りをさらに減らす目的で、昨年、救急のベッドを増やしました。今後とも救急医療を必要としている地域の皆さまを全て受け入れることを目指したいと思っています。当センターの母体である医療法人グループには、病院、クリニック、通所リハビリ、介護老人保健施設などがあり、医療から介護まで一貫してサポートできる仕組みがあります。これらの施設との密接な連携はたとえばリハビリテーションを積極的に推奨することなどによって患者さんにとってメリットが多いと確信します。また、昨年度はPhoton-counting CT「NAEOTOM Alpha」という最先端のCT装置を導入しました。組織や物質の識別精度が向上し、従来以上に正確な診断が可能です。またハイブリッド型手術室も更新し、よりフレキシブルなアーム稼働で多診療科での手技に対応できるようになりました。

当センターは毎年どんどん進化しております。地域の皆さまにおかれましては、今後とも暖かい支援をお願い申し上げます。

最新の AI を活用した内視鏡システムを導入しました！

西宮渡辺病院

オリンパス社の最新・最上位機種となる内視鏡システム「EVIS X1」を2025年2月に導入しました。

消化器内視鏡システムは、胃食道逆流症、胃潰瘍、クローン病、セリアック病、大腸がんをはじめとした消化器の上部・下部の病気が病変に対して、医師による診断、治療、観察に活用されています。

もっとも一般的な使用用途の一つとして、医師が内視鏡を通して病変の粘膜を観察し、がんにつながる可能性のあるポリープを切除することなどがあげられます。

「EVIS X1」独自のイメージング技術(AIによる画像解析でリアルタイムに病変の存在予測を知らせる)により、異変を視覚化することで、医師の支援に貢献します。

これからも地域の皆様のご期待に沿えるように、消化器疾患の早期発見、治療に役立ててまいります。



法人関連施設

- 社会医療法人 渡邊高記念会 / 西宮渡辺病院 / 西宮渡辺心臓脳・血管センター / 西宮渡辺脳卒中・心臓リハビリテーション病院
 - 西宮渡辺心臓脳・血管センター 広田クリニック / 西宮渡辺心臓脳・血管センター 東灘クリニック / 勝呂クリニック / 介護老人保健施設ハートケア西宮わたなべ
 - グループホームてまりの家 / 定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所わたなべ / グループホーム西宮わたなべ
 - サービス付高齢者向け住宅ひだまり / すくすく保育 わたなべ / 訪問看護ステーション西宮わたなべ / 健康塾
 - 通所リハビリテーション / 居宅介護支援センター西宮わたなべ / 西宮渡辺ヘルパーステーション / 西宮市中央在宅養相談支援センター

- 社会福祉法人 高明会 / 特別養護老人ホーム シルバートピア西宮 / 居宅介護支援センターはまかせ

わたなべニュースに対する皆様よりのご意見・ご感想をお待ちしております。

当院各階詰所・1F受付に設置しております 「ご意見箱」 をご利用ください。

【発行元】社会医療法人 渡邊高記念会 法人本部 【TEL】 0798-74-1771 【FAX】 0798-74-7257
【URL】 <https://www.n-watanabe-hosp.jp/>



URL



LINE



西宮渡辺心臓脳・血管センター 開院記念



「副管理者 ご挨拶」

西宮渡辺心臓脳・血管センター
副管理者 兼 放射線科統括部長

渡邊 慶明



6月1日は、西宮渡辺心臓・脳血管センターおよびハートケア西宮、西宮渡辺脳卒中・心臓リハビリテーション病棟の開院日であり、同時に創設者である私の祖父の誕生日でもあります。

祖父が「地域の役に立ちたい」という強い想いで立ち上げた当法人は、今年、法人設立60周年、センター創立20周年という大きな節目の年を迎えることとなりました。

世界に目を向ければ、ウクライナや中東における紛争、物価高騰など、今まさに大きな転換点に差し掛かっています。日本国内でも、医療を取り巻く環境は日々厳しさを増しています。しかしそのような中であっても、私たちは「どんな時でも地域の救急を守り抜く」という不変の使命に立ち返り、これからも着実に歩みを進めてまいります。

本年は、脳神経外科の刷新により診療体制の再構築を進めました。あわせて、近隣大学や他の医療機関との連携も一層強化し、地域全体の医療水準向上にも努めております。

また、昨年度には、関西の民間病院として初めて導入したシーメンス社製Photon Counting型CTや、ロボットアーム型のハイブリッド手術室も順調に稼働しており、先進的な医療技術を地域に還元する体制が整ってきております。

ただし、どれほど機器や体制を整えても、それを最大限に活かすためには、地域の皆様のご理解とご支援が何よりも不可欠です。これからも変わらず、地域に根ざした医療の提供に全力で取り組んでまいります。引き続き、皆様のあたたかいご助力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

「副院長 ご挨拶」

西宮渡辺心臓脳・血管センター
副院長 兼 内科診療部長

合田 亜希子



西宮渡辺心臓脳・血管センターは開院20周年、私は赴任して4年目を迎えました。当センターは心臓、脳、血管疾患に対し、最新の医療技術とチーム医療体制を整備し、医療環境や患者様のニーズが大きく変化する中、一貫して「患者様中心」の診療を掲げ発展してまいりました。

入院、外来だけでなくリハビリテーションにも力を入れており、病気になったあとも患者様の生活の質を維持、改善することを目指しています。急性期から在宅復帰まで一貫した支援体制を整え、患者様一人ひとりに寄り添った医療を実践しております。今後も、地域の皆様の“かかりつけセンター”として、信頼と安心の医療を提供できるよう、研鑽を積んでまいります。

これからも皆様のご指導、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

「副院長 ご挨拶」

西宮渡辺心臓脳・血管センター
副管理者 兼 循環器内科部長

山根 崇史



西宮市及び芦屋市が属する阪神南地域における救急、急性期医療を中心にして慢性期医療、回復期及び維持期リハビリなどの包括的な診療を提供しています。提供できる医療の質をより高め、高いレベルでの循環器疾患の診断と治療、そして社会復帰促進ができる施設を目指すことが我々の使命であります。

特に救急診療においては、24時間体制で循環器専門医による迅速な対応を行っています。

また循環器疾患にかかわらず二次救急の輪番でもあり、阪神南地域から多くの搬送依頼があります。特に院外心肺停止患者に対しては、社会復帰率を向上させるため、医師を現場に派遣するラピッドレスポンスカー（ラピッドカー）を運用し、PCPSを用いた心肺蘇生（E-CPR）も積極的に行っています。

症例件数の実績ですが、経皮的冠動脈形成術（PCI）の件数は501例と、兵庫県下においても有数の施設となっています。その内救急医療での急性心筋梗塞（AMI）は119例あり、当院の使命である循環器救急医療の提供が出来たのではないかと考えています。また、超重症心不全患者の受け入れも多くありました。Impella（経皮的循環補助装置）を使用して、治療を行った件数も31例と多いです。

今後も24時間体制の循環器専門医による迅速な対応を継続すると共に、西宮市救急、芦屋市救急から循環器救急として頼りにされる施設として継続努力して参りたいと思います。また開業医の皆様や患者様から、一番大切な人を受診させたいと思ってもらえる病院を目指すことも目標としたいと思います。また、経カテーテルの大動脈弁植え込み術(TAVI)だけでなく、2024年より抗凝固薬の内服が困難な心房細動患者様に対して経皮的左心耳閉鎖術も開始しました。治療を受けてよかった。そう思ってもらえる病院を目指して、努力して参りますことを決意して、これからの抱負にしたいと思います。

<2024年 循環器内科手術実績>

経皮的冠動脈形成術（PCI）	501
内 急性心筋梗塞に対するPCI	119
経カテーテル大動脈弁置換術（TAVI）	24
大動脈バルーンポンピング（IABP）	19
経皮的心肺補助法（PCPS）	33
経皮的循環補助法（Impella）	31

西宮渡辺脳卒中・心臓リハビリテーション病院 「開院記念ご挨拶」

西宮渡辺脳卒中・心臓リハビリテーション病院 院長

槌田 昌平



当院は、心臓および脳血管疾患に特化したリハビリテーション病院として、平成30年（2018年）に前浜町の「福祉の郷」内に開院し、このたび6月1日に開院7周年を迎えることができました。これもひとえに、地域の皆様、関係機関の皆様のご支援の賜物と、心より感謝申し上げます。

当院では、回復期リハビリテーション病棟に加え、心臓リハビリテーションを中心とした外来部門や、通所リハビリテーションも運営しております。また、同じ建物内には老人保健施設「ハートケア西宮わたなべ」も併設されており、医療と介護の密な連携による包括的な支援体制を整えております。

脳卒中や心疾患は再発リスクの高い疾患であるため、単なるリハビリにとどまらず、再発予防や生活指導を含めた総合的な医療・支援の提供を目指しております。

今後も法人内の他施設との連携を深め、地域の皆様の健康と安心を支える拠点として、職員一同努めてまいります。引き続き温かいご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



部署紹介

西宮渡辺心臓脳・血管センター 心不全看護外来のご紹介

心不全は、増悪と寛解を繰り返しながら進行する慢性疾患であり、その再入院率の高さが大きな課題となっています。特に退院後6カ月以内の再入院率が27%、1年後には35%に達するという報告があり、患者様の生活の質を大きく損なう要因となっています。

再入院の原因には、基礎疾患の進行や感染症といった医学的要因だけでなく、塩分や水分制限の不徹底、過労、治療薬服用の不徹底といった非医学的要因も多く含まれています。これらは、患者様自身が生活習慣を見直し、適切なセルフケアを行うことで予防可能な場合も少なくありません。

そのため、患者教育を通じてセルフケア能力を向上させることが重要です。

西宮渡辺心臓脳・血管センターでは、こうした課題に対応するため、入院中からパンフレットを用いた患者教育を行っています。

また、訪問看護など在宅支援チームとの連携を強化し、退院後も継続的な疾患管理ができるように支援しています。

しかし、高齢化社会の進展に伴い、疾病管理が不十分で再入院となるケースも多くみられます。

このような背景を受け、当センターでは2025年6月から「心不全看護外来」を新たに開始しました。

この外来では、心不全療養指導士の資格を有する専門スタッフが患者様一人ひとりに寄り添い、退院後の患者様の心不全症状の観察や生活状況の確認、食事指導や服薬管理、日常の活動などについて具体的な指導を行っています。

患者様一人ひとりに合わせた療養指導を行い、再入院リスクを低減するとともに、より良い生活を送れるような支援を目指して、今後も「心不全看護外来」のチーム全員で切磋琢磨していきたく思います。



心不全看護外来チーム

第16回優秀論文賞受賞講演のご報告

令和7年6月26日にホテルヒューイット甲子園にて西宮市医師会主催の学術講演会が開催されました。

今回、西宮渡辺心臓脳・血管センター 血管外科部長の畑田充俊 医師が、西宮市医師会の優秀論文賞を受賞し、第16回優秀論文賞講演として「重症虚血肢患者でのPerfusion Indexによる予後予測」のテーマにて講演を行いました。多くの医師会の先生方にご参加され、熱心に聴講されておられました。

今後も地域の医療機関、クリニックの先生方との連携を強化し、患者さんが早期に社会復帰できるように総合的な治療を行ってまいります。

